

平成22年9月17日(金)
中日本高速道路株式会社
東京支社
国土交通省関東地方整備局
横浜国道事務所

記者発表資料

しゅとけんちゅうおうれんらくじどうしゃどう けんおうどう えびなジャンクション えびなインターチェンジ
**首都圏中央連絡自動車道（圏央道）海老名JCT～海老名IC間
開通後半年間の交通状況と整備効果をお知らせします。**

けんおうどう えびなジャンクション えびなインターチェンジ
圏央道の海老名JCTから海老名ICまでの間(延長1.9km)が、平成22年2月27日(土)15:00に開通しました。この度、開通後半年間の交通状況と整備効果を取りまとめましたので、お知らせします。

<交通状況>

圏央道 海老名JCT～海老名IC間の開通後半年間の平均交通量は、約10.7千台/日で、順調に増加しています。

海老名JCT～海老名IC間を利用する平均交通量の内訳は、東京方向からと名古屋方向からが同程度でした。

厚木ICの出入交通量は、開通前より約7.4千台/日(約9%)減少しました。

海老名ICの整備により、周辺一般道路の車の流れに変化が生じ、相模川渡河部の交通量が減少し、海老名IC周辺の交通量が増加している状況を確認しました。

<整備効果>

海老名ICを利用した救急搬送が11件あり、人命救助に役立つと共に、搬送時間の短縮により救急車不在時間が減少し、市民生活の安心確保に繋がっています。

海老名市及び厚木市内にお勤めの方にアンケート調査をした結果、相模川渡河部の交通混雑緩和について、約4割～5割の人が実感しています。

海老名市内の企業からは、海老名IC利用による移動時間短縮効果、それに伴うドライバーの疲労やストレス軽減効果があると声が寄せられています。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 都庁記者クラブ
神奈川県政記者クラブ 横浜市政記者会 横浜ラジオ・テレビ記者会

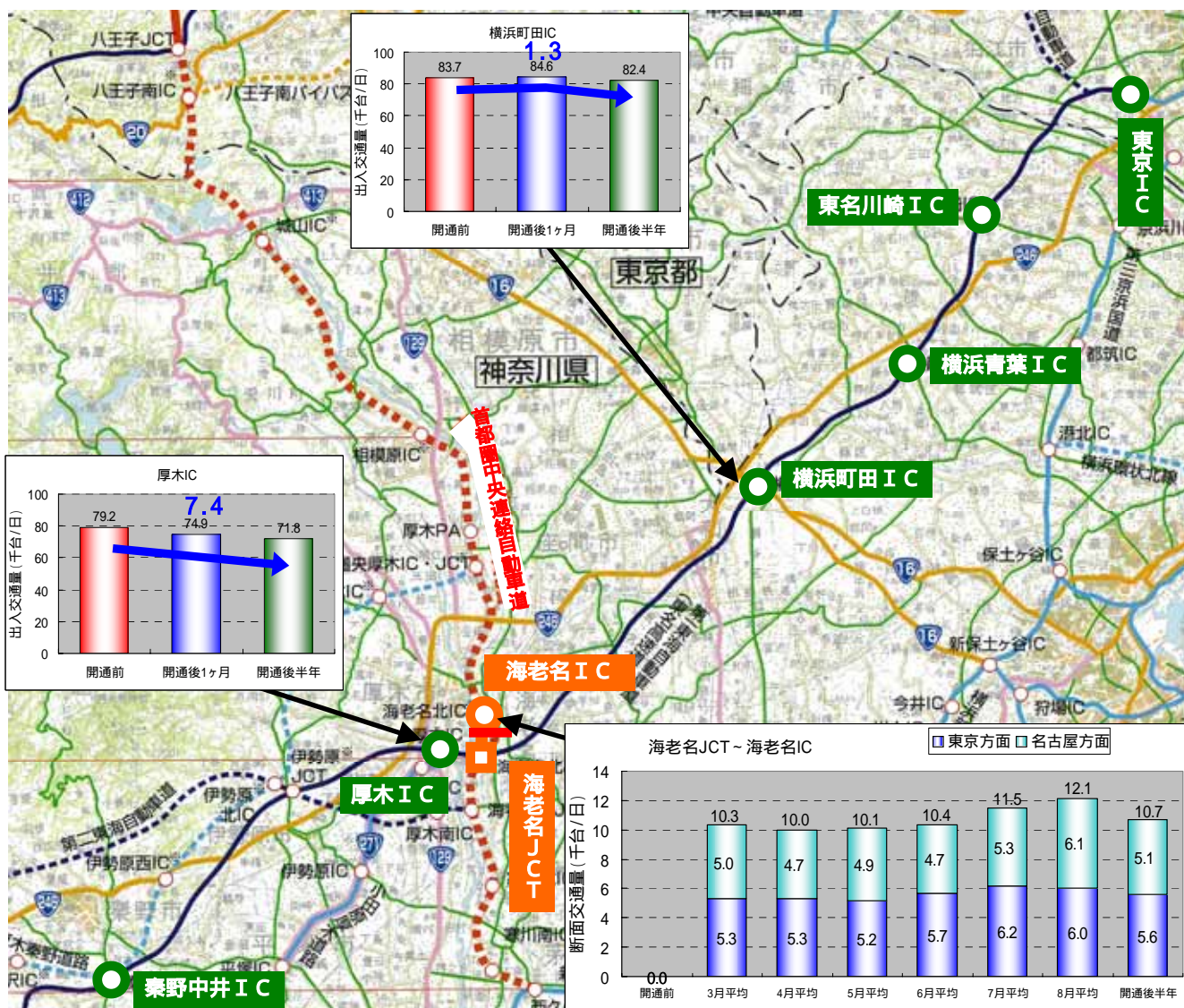
問い合わせ先

NEXCO中日本 東京支社 広報・CSチーム(平日9:00～17:30)
電話 03-5776-5257(直通)

国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所
副所長(改築)徳高 公明 調査課長 石倉 丈士
電話 045-311-2981(代表)

1. 圏央道の交通量

- ・ 2月27日に開通した圏央道 海老名JCT～海老名IC間の交通量は、開通直後の3月平均が約10.3千台/日、直近の8月平均が約12.1千台/日、開通後半年間の平均が約10.7千台/日と順調に増加しています。
- ・ 開通後半年間に海老名JCT～海老名IC間を利用した平均交通量の内訳は、東京方面が約5.6千台/日、名古屋方面が約5.1千台/日でした。
- ・ その一方で、隣接する厚木ICの出入交通量は約7.4千台/日（約9%） 横浜町田ICの交通量は約1.3千台/日（約2%）開通前より減少しました。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図を複製したものである。(承認番号 平21業複、第765号)

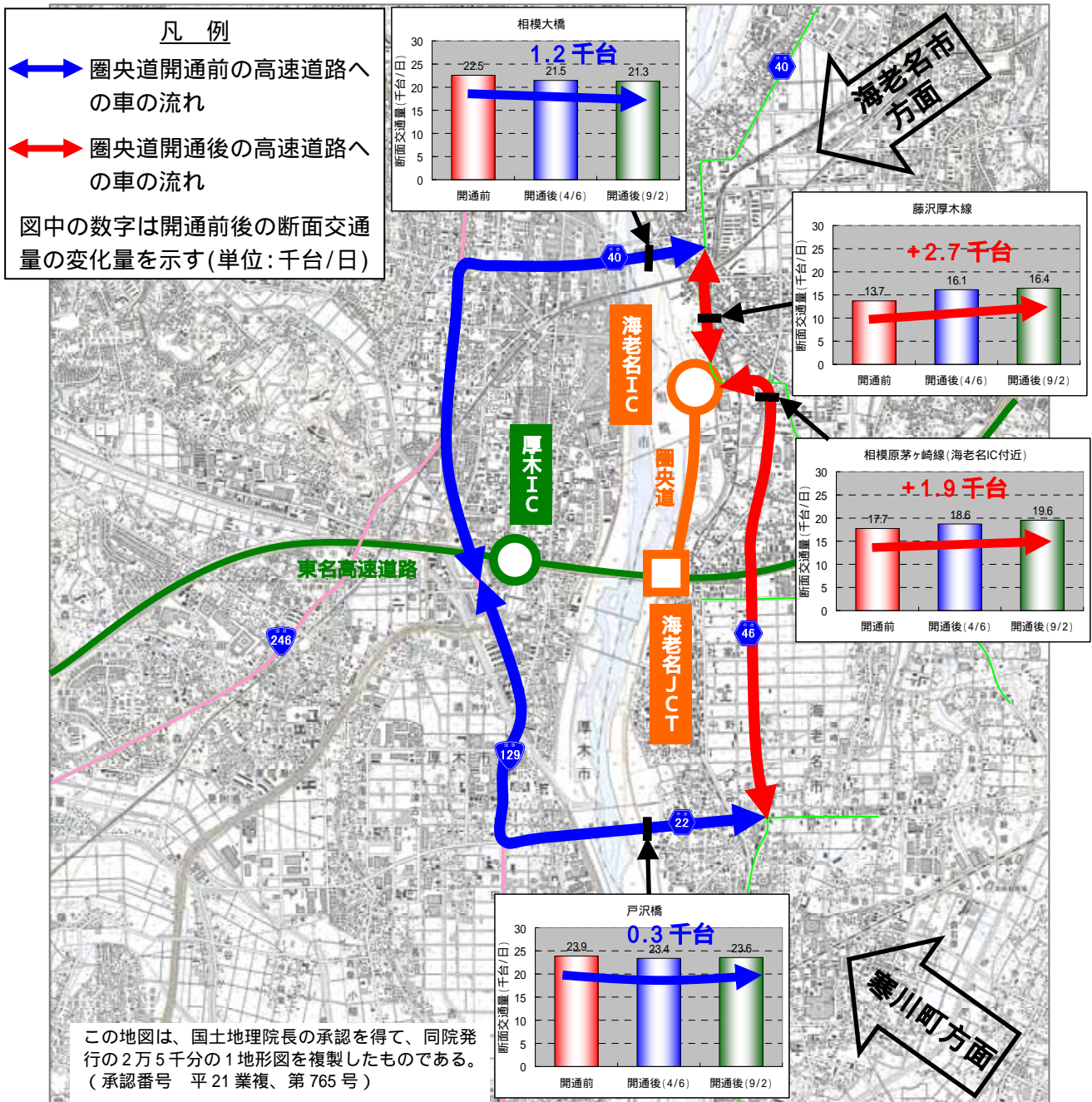
交通量は交通量計測装置によるデータを速報値として記載。

開通前は平成22年2月20日(土)～2月26日(金)の日交通量の平均値を記載。

開通後1ヶ月は平成22年3月1日(月)～3月31日(水)、開通後半年は3月1日(月)～8月31日(火)の日交通量の平均値を記載。

2. 海老名 IC 及び厚木 IC 周辺一般道の交通量

- ・ 開通前（2月23日）と開通後1ヶ月（4月6日）、開通後半年（9月2日）に、市内の一般道において交通量調査を行いました。
- ・ 相模川渡河部の交通量を開通前後で比較すると、相模大橋で約1.2千台/日（約5%）、戸沢橋で約0.3千台/日（約1%）減少していました。
- ・ 一方、海老名ICに向かう交通量は、藤沢厚木線で約2.7千台/日（約20%）、相模原茅ヶ崎線で約1.9千台/日（約11%）増加していました。
- ・ 海老名IC整備により周辺一般道路の車の流れに変化が生じ、相模川渡河部の交通量が減少、海老名IC周辺の交通量が増加している状況を確認しました。



開通前は平成22年2月23日(火)、開通後は平成22年4月6日(火)、9月2日(木)の交通量調査結果を記載。

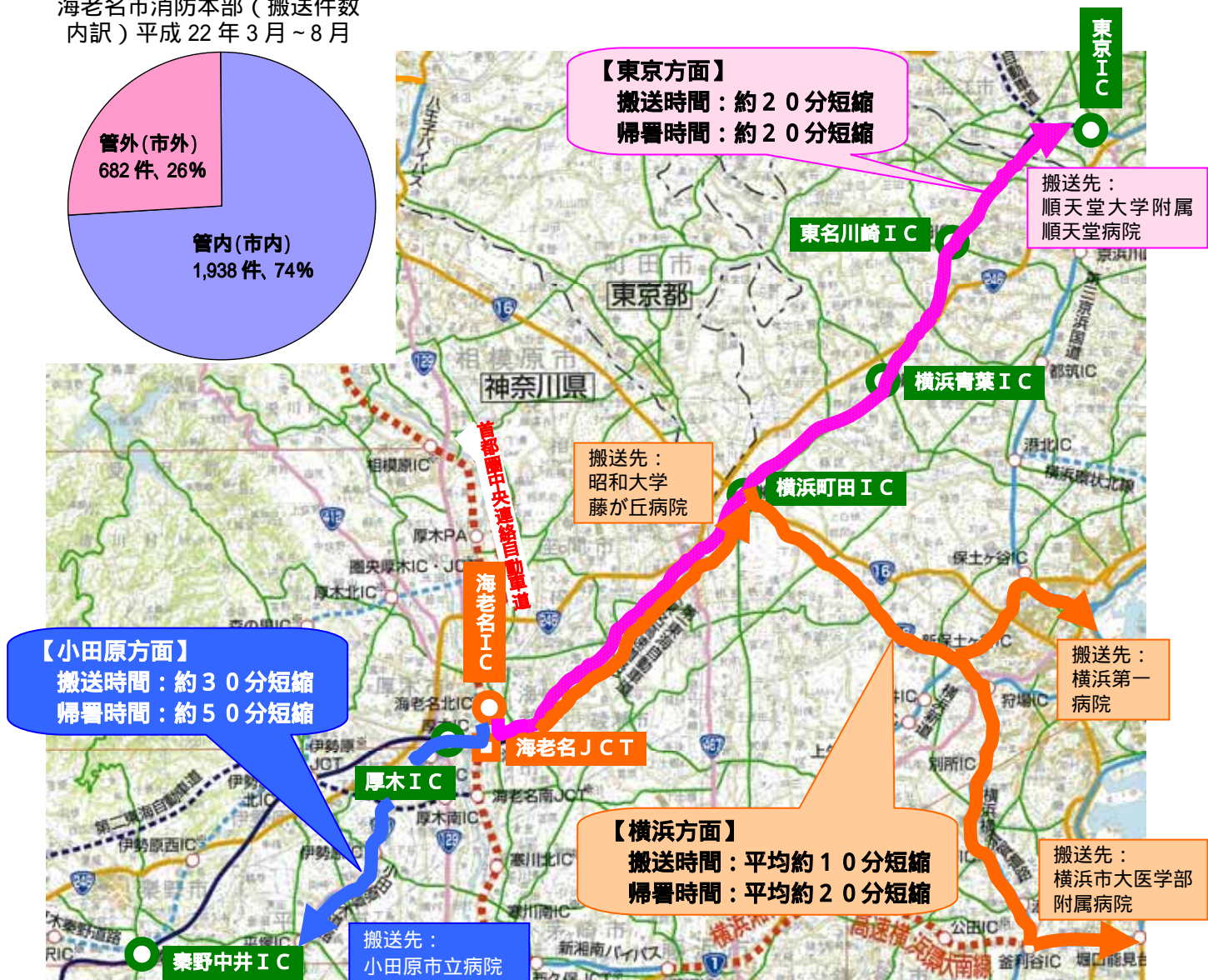
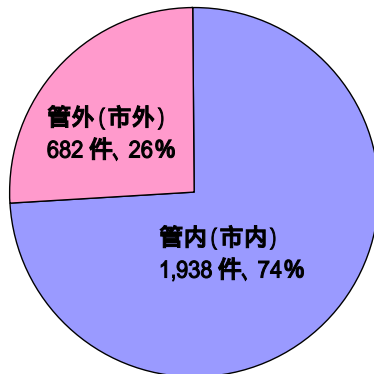
3. 救急搬送等における所要時間の短縮

- ・海老名市消防本部では、今年3～8月の半年間における総搬送件数は2,620件で、うち管外への搬送が682件ありました。
- ・海老名IC～海老名JCTの開通後、同区間を利用した救急搬送件数は11件で、東京都内や横浜市内、小田原市内の病院への搬送でした。

(平成22年8月31日現在)

- ・これらの搬送を開通前後で比較すると、東京方面で約20分、横浜方面で約10分、小田原方面で約30分短縮しており、患者の方々の早期治療に寄与しています。
- ・また、帰署時間も東京方面からは約20分、横浜方面からは約20分、小田原方面からは約50分短縮しており、救急車の不在時間が減少しています。

海老名市消防本部(搬送件数内訳)平成22年3月～8月



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図を複製したものである。(承認番号 平21業複、第765号)

救急搬送に関するデータは、海老名市消防本部のデータを基に作成。

各方面への搬送時間、帰署時間の短縮は、平成21年度と平成22年3月～8月までの実績のうち搬送先が同じものを単純比較した結果であり、今後の搬送における時間短縮を確約するものではありません。また、同じ搬送先でも全く同じルートを利用するものではありません。

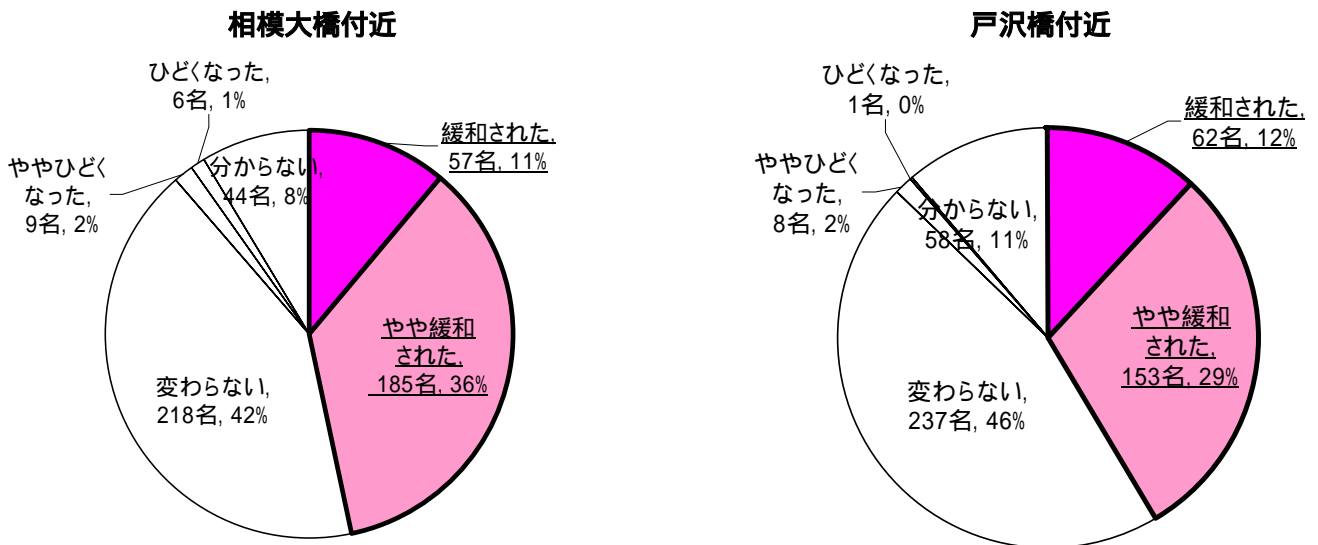
4. 一般ドライバーからの声

- ・圏央道の整備効果について、海老名市及び厚木市内の企業等にお勤めの方にアンケート調査を行いました。
- ・相模川渡河部の交通混雑緩和について、相模大橋付近で約50%、戸沢橋付近で約40%の人が実感しています。
- ・海老名IC整備により、約30%の方が「高速道路利用機会が増えた」と言っています。

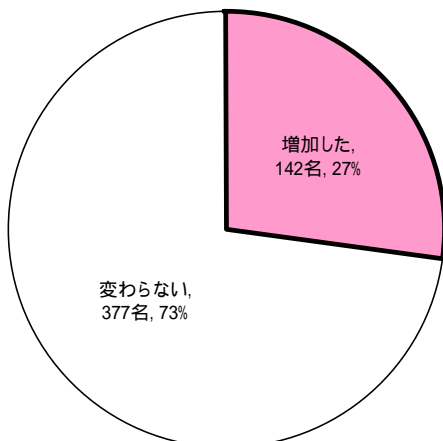
アンケート調査概要

調査手法：当社にてアンケート用紙の配布及び回収を実施
 配布期間：平成22年4月8日～14日
 配布先：海老名市及び厚木市の食品関連（4社）輸送関連（2社）郵便局、商工会議所等にお勤めの方
 配布数：1,100枚
 回収期間：平成22年4月19日～30日
 回収数：519枚（回収率47%）

問1 海老名ICができたことにより、相模川渡河部の混雑状況がどのように変化すると実感されていますか？



問2 海老名ICができたことにより、高速道路を利用される機会は増えましたか？



5. 企業からの声

A 社



【海老名IC開通による効果】

- ・商品の配送はトラック輸送が主であり、厚木ICから海老名ICへ利用ICを変更したことにより、30～40分（片道）の時間短縮が図られた。
- ・特に大手ナショナルチェーンでは納品期限が厳しく、確実な納品を達成するために高速道路を利用するので、時間短縮の効果はうれしい。
- ・（配送車両の海老名IC利用台数：63台/日（9/9実績））

【圏央道延伸への期待】

- ・関越自動車道などへは、首都高速道路を經由しているルートから、圏央道のみでのアクセスが可能となることから、搬送におけるさらなる時間短縮に期待する。



首都圏における高速道路ネットワーク

ナショナルチェーン：全国的規模で複数の地域にチェーンストア網を確立している飲食・小売企業。

B 社



【海老名IC開通による効果】

- ・商品の配送や原材料の仕入れ、営業活動等において、厚木ICから海老名ICへ利用ICを変更したことにより、20～60分（片道）の時間短縮が図られた。
- ・自社工場間の商品搬送入（関西・名古屋・東北）、原材料の搬入（関西・名古屋）における広域搬送でも高速道路を多く利用している。
- ・商品は神奈川全域、静岡、東京西部、山梨へ配送しているが、納品期限が厳しいため、時間短縮の効果はうれしい。
- ・ドライバーからは、「一般道の渋滞を通過しなくてよいので、疲労やストレスが軽減される」といった意見が多い。
- ・（配送車両の海老名IC利用台数：61台/日（9/2実績））

【圏央道延伸への期待】

- ・圏央道延伸の効果は大きい。配送先が埼玉、新潟、長野にもあり、中央自動車道、関越自動車道とのつながりにより、IC利用だけではなく搬送ルート自体の見直しが考えられる。

物流等に関するデータは、各社へのヒアリング調査、実態調査の結果を基に作成。